

体験航海の様子



親子で巡視艇「あきぐも」を体験航海

比田勝海上保安署による巡視艇「あきぐも」の体験航海が7月20日に佐須奈港、21日に比田勝港で実施され、小中学生や保護者が参加しました。

参加者は体験航海を前に実施された海の安全教室で救命胴衣着用等の説明を受けて、巡視艇に乗り込み、乗組員に操船を教わりながら実際に舵を握り巡視艇の操船を体験しました。体験者は、海上を滑る様に航走する巡視艇のスピードに驚いた様子で、「船の運転は、真っ直ぐ走らせることが難しかったけれど、とても楽しかったです」と話していました。

「犯罪を防ぎ、立ち直りを助けよう」と呼びかけ

7月は社会を明るくする運動 強調月間

社会を明るくする運動は、犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちの更生について理解を深め、明るい社会を築こうとする全国的な運動で、毎年各地で色々な活動が行われています。

対馬市では保護司を中心に運動が行われ、7月6日に保護司や更生女性会のメンバーが参加して「パル21」で啓発活動が実施されました。運動の意義を説明しながら啓発物資を配布し、市民に理解を求めました。



シリーズ「人権教育総合推進地域事業」の取組 その

対馬市教育委員会

佐護小中学校の取組

文部科学省指定の人権教育総合推進地域事業の研究協力校として、子どもたちの人権感覚を育てる研究を行っている佐護小中学校の取組を紹介します。

本年度は「お互いに認め合い、高め合う学校・学級集団作り」をテーマに、主に地域との連携活動の充実を研究の柱として、子どもたちの人権意識の高揚を図っています。このような活動にPTA活動も歩調を合わせ、様々な活動を行っています。

6月27日には、佐護住民センターに南島原市在住の助産師中村まり子先生を招き、演題「愛されるために生まれてきた子どもたち」の講演会（PTA文化教養部主催）を開催しました。

ユーモアあふれるトークの中で、「生きるために大切なこととは」「相手の目を見て会話をしよう」「1日1回相手を褒めて、優しい気持ち（思いやり）を持つ」というなど、コミュニケーション



の大切さや今重要視されている食育についてのお話を聞くことができ、あっという間の90分でした。参加した保護者の方々からは「いい出会いを頂いた」「怒るより褒めて育てるを忘れていました」「我が子に自己決定をさせていたのだろうか？ 忙しさにかまけて自分に合わせさせてばかりではなかったか？」等の感想があり、大変有意義な講演会になりました。

これからも、学校を一つの拠点として、子どもたちが伸び伸びと豊かな心で、相手を思いやり、自分に素直に育っていかれるよう、佐護校区全体で見守って行っていくつもりです。

なお、本校3年間の研究成果を、平成21年1月30日に、本発表として市民の皆様方に公開します。多数のご参観をお待ちしています。

その他、活動の詳細については、佐護小中学校HP（<http://www5.ocn.ne.jp/~sago/top.html>）にて随時紹介しています。ぜひご覧ください。

（文責 対馬市立佐護中学校 教頭 谷坂利浩）